

辻野 ヒロシ
TSUJINO HIROSHI

Q-STATION
FM KYOTO 89.4

SPECIAL INTERVIEW



自分が前に出るよりも、好きなものを「伝えたい」。

DJ辻野ヒロシをつくった一言

僕は本当に、仕事を趣味にしています。海外旅行も大好きで、担当番組が週2回だった頃はかなり強行突破な渡米もしました。洋楽番組を担当しているからこそ、時代の移り変わりや生きた情報を自分の目と耳で確かめたい。何でもネットで入手できる時代じゃないですか？ だからこそ、自分自身で確かめることに意味があると思うんですよ。大学卒業後の留学で知ったのは、音楽が人々の生活に根付いている現実。そういう肌で感じたことを、伝えられたらと思っています。

基本的には体育会系でプラス思考なので、「行こうぜ！行こうぜ！」ってノリで突き進みます。かといって、目立

すよね、「それじゃあ、英語で自己紹介してください」とか。これはマズイ！と、渡米したんです。勉強は好きじゃないけど、やるって決めたら根性でやる。やり遂げるまでは「やるーやるー」って言い続けるんですよ。DJを目指したきっかけは、大学生のときに、某局の先輩DJから「声がいいから、DJやったらいいんじゃない？」と言われたこと。思えば、あれが間違いない第一歩というか、幸せなイバラの道への入り口でした(笑)。

DJとしてやるべきこと

Tsujino Hiroshi

1976年5月28日生まれ。三重県鈴鹿市出身、京都市在住。関西外国語大学卒業。平日はラジオDJ、週末はレース実況、そしてウェブライターとしても活躍中。担当番組は「MOONLIGHT WALK」

ちたがりかと言うと全然そんなことなくて(笑)。自分よりも曲を目立たせるにはどうしたらいいか？って、常に考えながら番組をつくるのが楽しい。「オレが推しているからお前も聴けよ」ではなく、何かのきっかけになればいい。年上の人に、若い音楽を無理矢理押し付けても仕方ないですよ。でも例えば、J-O-J-Oという15歳のアメリカ人のアーティストがいるんですが、彼女がTOTOの「アフリカ」をサンプリングした曲があり、そういう曲を通じて、30〜40代のリスナーにも親しんでもらえた。そういうきっかけを考えるのが、ディレクターも兼ねているDJとしての自分の切り口だと思っています。

本音で伝えられる番組づくりを

最近の若いリスナーさんからのメールなどを見ていると、考え方が曖昧な印象を受けることが多いんですよ。頭ごなしに否定することは良くないけど、それじゃダメなんじゃない？ってハッキリ言うのも大切なこと。難しいことですけどね。ダメなときにダメと言えないDJでありたいんです。楽しいトークに+α、役に立つトーク、心にスシンとくるトークができればいいなあ。

この仕事をしていて、毎日思うのはほんっと幸せ！ってこと(笑)。ツライ部分ももちろんあるけど、こんな幸せな人生ないな。いろんな人に支えられて、自分の力を買ってもらえて、大好きな音楽とレースに囲まれていられるのはうれしい限りです。だからこそ、現状に満足するんじゃなく、どんどん進化していきたい。いまの番組も、昔からのフォーマットにしたがって構成しているのを「もっとならわった切り口でつくれないか？」と模索中です。クラブなどで、音楽イベントもやりたいですね。マイナーな存在になりつつある洋楽がもっと注目されるような番組づくりを目指しています。



DJ's Favorite item

購入後、2週間で興味のベクトルが逸れた「iPod U2 Special Edition」。引っ越し時に付属品を紛失して以来、ずっと眠らせていたが、最近是新幹線移動が増えたためやっと日の目を見ることに。



MOONLIGHT WALK

毎週月～金

DJ: 辻野ヒロシ(月～木)、しもぐち☆雅充(金)

都会派のスタイリッシュ・ミュージックプログラム。新譜から旧譜まで、洋楽オンリーの選曲とともに海外アーティストもゲストに迎え、ココしか聴けない情報も盛り込みながらUK&USAのミュージックシーンをご紹介。金曜日はブラジル・アジア・アフリカ・サルサ等、ワールドミュージックやラテンフィーバーを中心に、しもぐち☆雅充がフェスタ・ナイトを放出！